

ごめんねお母さん

希美さん

ごめんねお母さん

綾香はぶんぶん怒りながらバスの前席で揺られてた。

「綾香ちょっと待ちなさい」

「なに？遅れるなっていうのおかあさんでしょ」

「どうしてこんなに遅れたのピアノの日だから早く帰ってきなさいって言ったじゃない」

「だって先生が残ってポスター書きなさいって」

綾香はとっさにうそをついた本当は学校で友達のリカちゃんとお話してたからだ

綾香は走ってバスに乗った。

さっきのやり取りを思い出すとイライラする

「がーがーがーがーがーがーがーがーがーがーがーがーがーがーがーがー」

誰かがいびきをかいて寝ている

でもあたりを見回しても誰も寝ていない

もしかして

「キャー」

「どかん」

綾香そしてそのバスに乗っている人たちは帰らぬ人となった

お母さんは綾香のピアノのバックを抱きしめて

「ごめんねごめんねごめんね」

ずっといい続けたのだった